

保土ヶ谷 ほっとなまちづくり 骨子

「保土ヶ谷ほっとなまちづくり」とは？

保土ヶ谷区のみんなで「つながり支えあい 安心していきいきと暮らせるまち」を目指す「保土ヶ谷区地域福祉保健計画」の愛称です。

ほっとなまちづくりは、区民の皆さんと関係機関・団体、地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所などが共通の目標を持って、取組を進めています。



基本理念・3つのテーマは、**第4期計画から継続します！！**

基本理念

つながり支えあい 安心していきいきと暮らせるまち ほどがや

3つのテーマ

見守り・支えあい いきいき健康 担い手づくり・情報

大切にしている視点

子どもから大人まで 地域のみんなで一緒に

ほっとなまちづくりは一部の人のための計画ではなく、地域に暮らすみんなのためのものです。地域には乳幼児から高齢者までの幅広い世代、障害のある人、外国人等、様々な立場や背景のある人が暮らしています。支援する・される関係だけでなく、一人ひとりのできることを生かしながら、お互いに支えあう関係性を目指します。

第5期計画では、誰もが地域の一員であり、未来を創る子どもたち一人ひとりを大切にしていきたいという思いから、大切にしている視点に「**子どもから大人まで**」という文言を明記しました。「子どもから大人まで地域のみんなで一緒に」支えあう地域づくりを進めていきます。



第5期計画のポイント

第4期計画を振り返り、第5期計画に新たに取り入れたい要素や視点をポイントとしてまとめました。



① あらゆる世代や多様な人とのつながり

地域の支えあいの基盤となる人とのつながりの重要性については、これまでの計画の中でもうたわれてきました。そしてわたしたちは、今後も様々な社会状況(少子高齢化、一人暮らし世帯の増加、担い手不足、貧困問題等)に対応をしていく必要があります。

第5期計画の中で、特に大切にしたいことは、「子どもも地域を作る一員として尊重をしていくこと」と「違いを認め合うことによる孤立防止」です。

子どもたちは、大人とは異なる視点やアイデアをもっています。また、子どもとともに地域づくりを進めることで、友達や家族等、様々な世代と関われる可能性もあります。地域の一員である子どもたちの思いを大切にしていきます。

また、人にはそれぞれ違いがあります。異なる個性を尊重し、自分たちにできることを考えながら、温かく見守りあえる地域を目指します。

② 相互理解と連携でそれぞれの強みを発揮

第4期計画では、個人や団体同士のつながりや連携を推進し、地域活動を充実させることを目指してきました。その中で地域活動の課題を解決する際に複数の団体が得意分野を生かし、協力しあうことで解決の糸口が見つかったり、取組が充実した事例もありました。

そこで第5期計画では、より良い連携のために、様々な団体や関係機関がお互いの役割や特徴を知ることが大切になります。そして、それぞれの強みを生かして活動を充実させることを目指します。

③ 伝えるから伝わる発信へ

これまでは、様々な機会や手段を使って「できるだけ多くの人に情報を伝えること」を目標にしていました。一方で、情報を伝える際に「必要としている人に届けたい」という想いで工夫を凝らしても、情報が届かないことや、情報を必要としている人がうまく情報を見つけられないという課題がありました。

そこで、第5期計画では相手に合わせて、「分かりやすさ」や「目に触れやすいこと」等を意識して発信することを大切にしていきます。

例えば、やさしい日本語や手話等の相手に配慮した伝え方や、駅や商業施設等、日常の動線の中で情報を得られること、相手に合わせた発信の工夫をすることで届けたい情報が伝わり、「必要な情報が必要な人に届く」ことを目指します。

みんなで目指すまちの姿

見守り・支えあい



- ① 地域と関わりが少なかった人も出会いつながるきっかけがある。
- ② 病気や障害のある人、困りごとや生きづらさを抱えている人などへの理解が広がっている。
- ③ 住民同士が気にかかけあい、世代を超えてつながりあえる。
- ④ 地域住民、団体、企業、関係機関の相互理解や連携が深まり、地域活動が充実している。

いきいき健康



- ① 誰もが健康に関心を持ち、生きがいを見つけることができる。
- ② 乳幼児から高齢者まで、身近な場所で心と身体の健康づくりができる。
- ③ 地域住民、団体、企業、関係機関が連携し、地域での健康づくりを幅広く進めている。

担い手づくり・情報



- ① 世代を超えて、多様な人が地域活動に興味を持てるような機会がある。
- ② 多くの人が地域活動に関心を持ち、自分らしく活動できている。
- ③ 相手に合わせた情報の伝え方により、必要な情報が必要な人に届いている。

団体ヒアリングのまとめ

第5期ほつとなまちづくり策定に向けて地域で活動している団体へヒアリングを実施しました。

また、大切な地域の一員である子どもたちの意見を聞くために、小学5・6年生向けにワークショップを実施しました。様々な世代や分野のヒアリングを通して、日ごろの活動の中で感じている変化や課題、今後の活動など、福祉保健に関する事柄について、たくさんのご意見をいただきました。

今回、子どもワークショップや団体ヒアリングで見えてきた大切な考えや大事にしたい想いをまとめました。

① 子どもからつながる地域づくり～地域で子どもを育てるために～



子どもからのヒアリングでは、「高齢者が楽しめるイベントの企画」や「日頃感じている大人への思い」など、子どもの視点でのアイデアや考えを話してくれました。「もっとこうなったらいいな」「自分たちも誰かの役に立ちたいな」などのメッセージからは、子どもも住みやすいまちを作っていく大切な存在であることを感じました。



子ども関連の支援者からは、「子どものアイデアを生かしたり、子どもの取組をきっかけに大人や地域がつながることができるのではないか」というご意見をいただきました。また、地域食堂や学習支援、サロン活動など「みんなで子どもを育てる」ための支援がたくさんあり、「地域で子どもたちを育てていこう」というメッセージや熱い想いを聞かせていただきました。



ここから見えてきたこと

- ・子どもの考えを尊重し、子どもたちからも教えてもらいながら、一緒にまちづくりをしていくという姿勢が大切!
- ・親や家族だけではない、さまざまな大人との関わりの中で、子どもの成長を見守っていける地域にしていけるように!

② 様々な人の暮らしやすいまちを考える～孤立させない地域にするために～



地域の様々な人が孤立せずに暮らすための活動がたくさんありました。「妊娠・出産・育児の過程での切れ目のないサポート」「ひきこもり当事者やその家族の悩みに寄り添う支援」「外国人が地域の中で交流できる機会をつくる」等、誰かに相談ができたり、支援があることで、抱えている不安が和らぐことがあります。周囲とつながることや困りごとを一緒に考えてくれる存在の重要性を改めて感じました。



「障害があっても得意なことやできることがある」「一緒にできることを考えてみる」「だれでも参加できる内容で企画してみる」等、可能性を見出しながら進めていこうとする前向きなメッセージがたくさんありました。



ここから見えてきたこと

- ・人それぞれに抱えた事情や環境は違うけれど、その状況に想いを馳せたり、自分のことに置きかえて考えてみるのが大切。まずは知って、気づくことから!
- ・自分(たち)にできることに目を向けて、周りを巻き込みながら地域の中で助け合える関係性を作っていけるように!

③ 分野を超えたつながり～多様な力を発揮～



子どもの居場所や食堂を運営している団体では、地域の方の配膳の協力、農家や企業から食材等の寄付、大学生による学習支援等、様々なサポートの下で運営しています。また、団体同士でネットワークを広げていきたいという声もあり、お互いに協力したいと思っていることが分かりました。



障害施設からは、障害があってもその人それぞれにできることを知ってほしいという思いを聞きました。例えば、力のある利用者が地域の防災訓練で重い荷物を運ぶ役割を担ったり、花が好きな利用者が地域の花壇の手入れをし、まちの美化に貢献できる等の話がありました。

ここから見えてきたこと

- ・まずは、お互いの役割を理解し、分野を超えた団体や関係機関が協力することが大切！
- ・団体や関係機関がそれぞれの強みや得意分野をできる範囲で生かすことで活動が充実する！

④ 必要な情報が必要な人へ届く～誰もが暮らしやすくなるために～



情報を伝える人は「自分たちのことや取組についてもっと知ってもらいたい」、情報を受け取る人は「自分たちが必要としている情報をもっと(簡単に)手に入ると良い」という想いを抱えていました。ただ伝えるだけでなく、伝えたい人や情報を必要としている人に届けることが求められていることが分かりました。



職場や保育園の友人など身近な場所から情報を得る、相談窓口で関連機関を紹介してもらうなど、人から情報を伝えてもらうことも大切な情報源となりました。

ここから見えてきたこと

- ・情報を必要としている人に直接届けることが難しい場合も、他の人が間に入ることで、情報を伝えることができる！
- ・様々な機会を捉え、相手に合わせたツールを使って情報を届けること、わかりやすい表現を使って工夫して伝えることで、多様な人に情報を伝えていくことができる！

【第5期ほとなまちづくり策定スケジュール】

令和7年10月 計画素案意見募集（具体的な目標や取組内容を提示）

令和7年12月 計画決定（素案に対するご意見を反映し、計画を決定）



横浜市地域福祉保健計画キャラクター
「ちふくちゃん」



保土ヶ谷区のマスコットキャラクター

保土ヶ谷区役所福祉保健課事業企画担当
〒240-0001
保土ヶ谷区川辺町2-9
TEL:045-334-6343
FAX:045-333-6309
E-mail:ho-fukuho@city.yokohama.lg.jp

社会福祉法人 横浜市保土ヶ谷区社会福祉協議会
〒240-0001
保土ヶ谷区川辺町5-11 かるがも3階
TEL:045-341-9876
FAX:045-334-5805
E-mail:h@shakyohodogaya.jp